

R3年度 立田南福祉会事業報告書

立田南福祉会法人事業報告 平成 29 年度 より立田南福祉会 の理事長に就任し、いくつかの取り組みを始めましたが、コロナ禍にあって、児童には外出自粛要請、遠足、行事の中止、職員には外部研修を必要最低限度にするなど、支援の根幹にかかわるような事態となり、年長組で学級閉鎖を2月終わりから3月初めのおよそ10日間行う事態となりました。幸い、卒園式は行うことができました。それ以外では、職員のマスク着用、手指消毒の徹底、消毒薬噴霧器の設置、空気清浄機の確執設置などご家庭の協力の相乗効果により、大きなクラスター(休園や複数学年閉鎖等)が発生することなく至っています。まだしばらくの間は、第4回目のワクチン接種開始後も、こうした制限は続くものと思われませんが、引き続き気を引き締めて取り組んでいきたいと思っています。

全体として例年通り「職員会議」を中心にした保育運営を行いました。外部より、保育園の副園長を経験し、大学でも専任準教授を経験された方を園長代理に招き、これまでのベテラン保育教諭による少人数による議論から、幅広い知見を活かした運営、保育指針に掲げられた5領域の「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」と「幼児期の終わりまでに育てて欲しい10の姿」をより意識した、保育・教育を目指しました。

研修事業では、今までの外部研修、内部研修に加え、外部から大学の講師等を複数人招き、特別研修を組み、先に述べましたように、保育所保育指針に則り、遊びと環境を意識した保育・教育の遡及と充実を目指しました。

IT化においては、「コドモン」という保育ソフトの活用を目指し、メールの配信、園だより、給食だより等のネット化(保護者のスマホなどからいつでも見られる環境)を実現しました。週案月案等のネット化も、現在、継続して取組み中です。少しでも保育教諭の事務時間の軽減を図り、保育・教育の充実にあてていきたいと考えます。

法人としての取り組み ① 保育・教育の環境整備に力を入れて参りました。② 社会貢献、地域貢献等については、子育て相談、園庭開放や消防署・公的会館等の施設見学・交流を図りましたが、コロナ禍で思う様な結果を出すことはできませんでした。

社会福祉法人 立田南福祉会
幼保連携型認定こども園 立南保育園
理事長 石 黒 照 人

事業報告書の付属明細書別紙参照